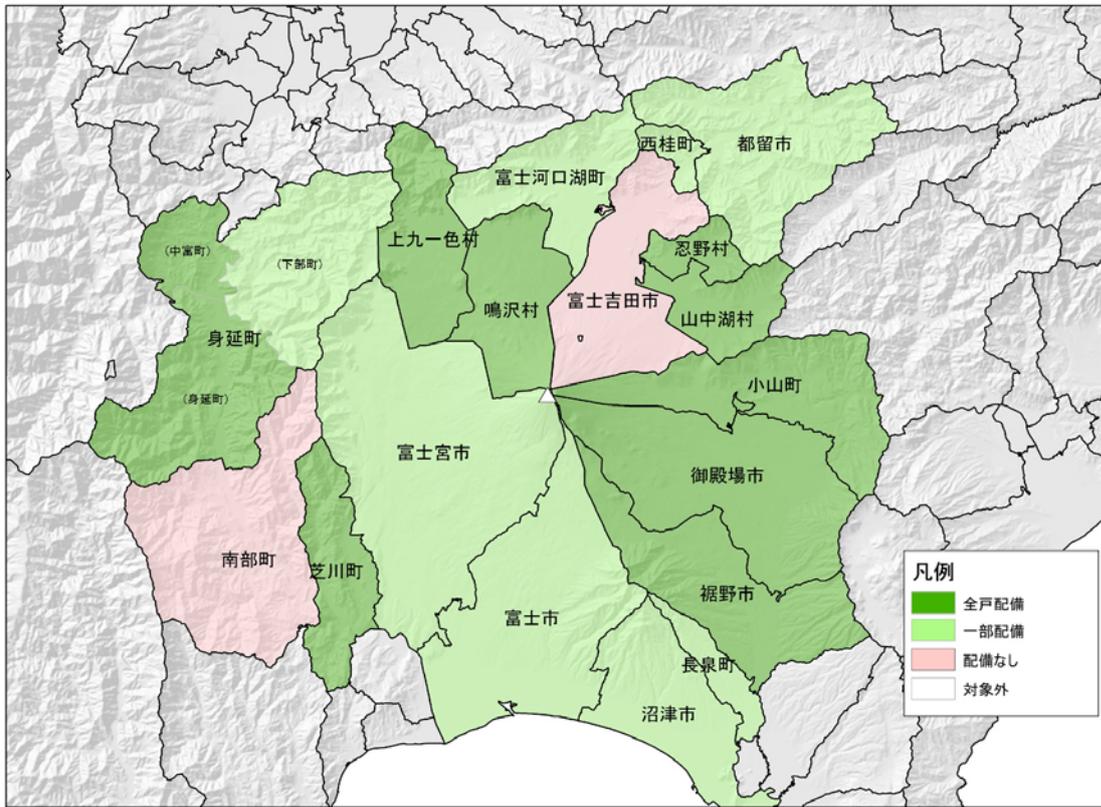


富士山周辺地域における情報伝達メディアの現況

■周辺市町村における同報無線の配備状況

- 同報無線の屋外拡声器；周辺全市町村において整備されている。
- 同報無線の戸別受信機の配備状況は以下のとおりである。



市町村名	同報無線		戸別受信機 配備状況	
	屋外方式	戸別方式		
<山梨県>				
富士吉田市	106			
上九一色村	23	540	全戸	
西桂町	9	1,459	一部	
忍野村	6	1,580	全戸	
山中湖村	9	1,900	全戸	
鳴沢村	5	730	全戸	
富士河口湖町	54	1,231	一部	
身延町	(旧下部町)	43	250	一部
	(旧身延町)	34	2,621	全戸
	(旧中富町)	36	1,833	全戸
都留市	146	116	一部	
<静岡県>				
沼津市	249	305	一部	
三島市	175	201	一部	
富士宮市	195	2,166	一部	
富士市	328	851	一部	
御殿場市	26	22,393	全戸	
裾野市	13	13,800	全戸	
長泉町	42	346	一部	
小山町	24	6,893	全戸	
芝川町	53	2,860	全戸	

(山梨県、静岡県調べ)

■災害時の放送協定（機関一覧）

山梨県・静岡県との協定

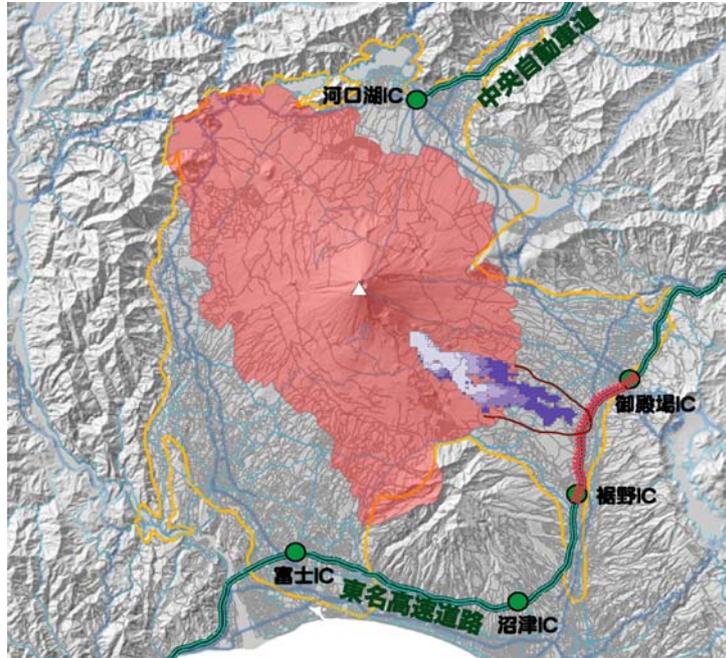
山梨県	NHK 甲府放送局 (株)テレビ山梨 UTY (株)山梨放送 YBS (株)エフエム富士 (FMF)
静岡県	NHK 静岡放送局 (株)静岡朝日テレビ SATV (株)静岡第一テレビ SDT 静岡放送(株) SBS (株)テレビ静岡 SUT 静岡エフエム放送(株) (K-MIX)

コミュニティエフエムとの協定

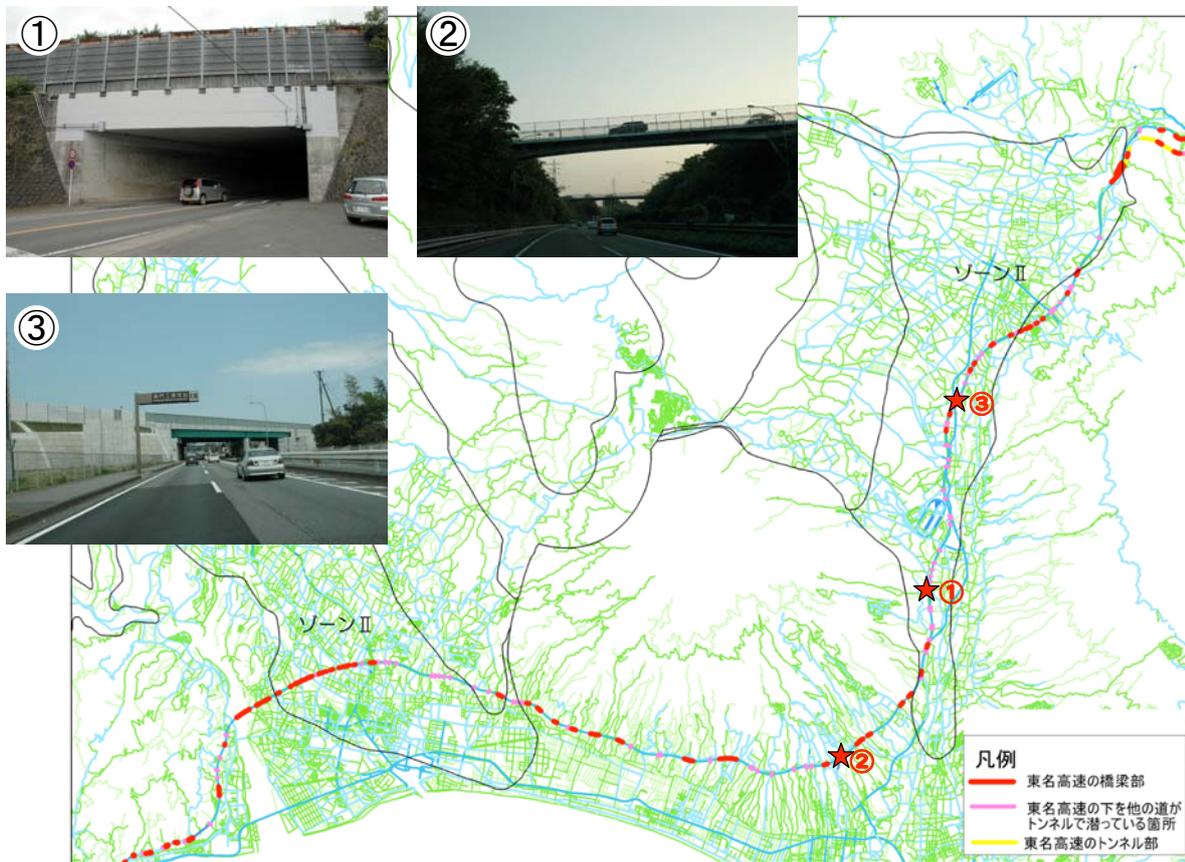
甲府市	(株)エフエム甲府
静岡市	(株)エフエムしみず (MARINE PAL) (株)シティエフエム静岡 (FM-Hi!)
三島市	ボイスキュー (エフエムみしまかなみ)
沼津市	エフエムぬまづ(株) (COAST-FM)

富士山周辺道路の交通規制計画（高速道路）イメージ

■噴火時の高速道路交通規制実施イメージ（例）



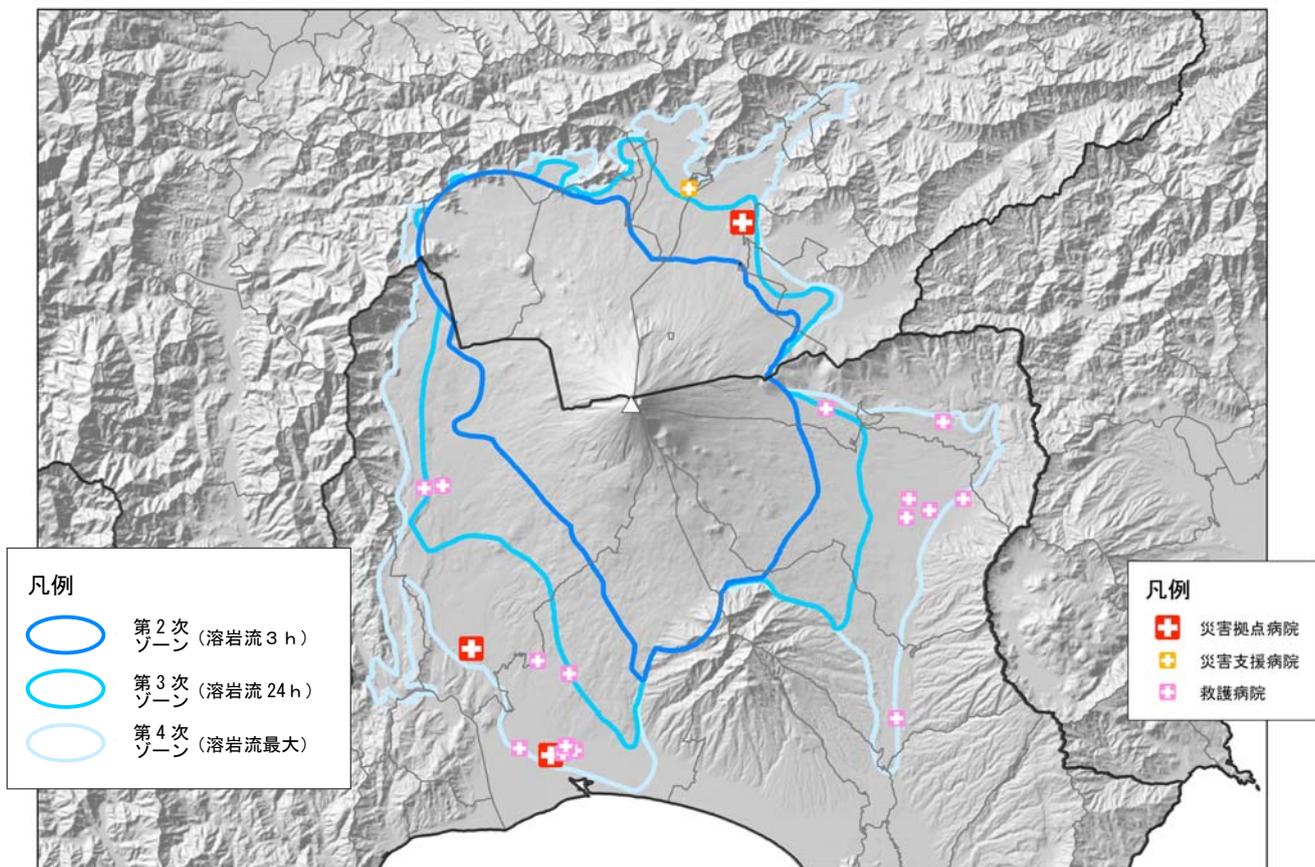
■富士山周辺高速道路の構造



※高速道路の構造は「数値地図 25000（空間データ基盤）」の道路データに基づく

富士山周辺の災害医療体制

■静岡県・山梨県における災害拠点病院等の配置



山梨県	災害拠点病院	1 個所
	災害支援病院（災害拠点病院の機能を支援）	1 個所
静岡県	災害拠点病院（救護病院を兼ねる）	2 個所
	その他の救護病院*	16 個所

*救護病院：重症患者の処置及び収容、中等症患者の処置を実施

○山梨県側の現況

- ・災害拠点病院が第3次ゾーン（溶岩流24時間以内到達）に含まれ、災害支援病院もその直近となっている。
- ・災害拠点病院、災害支援病院以外に主な医療機関がなく、第1次医療拠点が必要。
→第1次医療拠点として、救護所などの指定が必要。

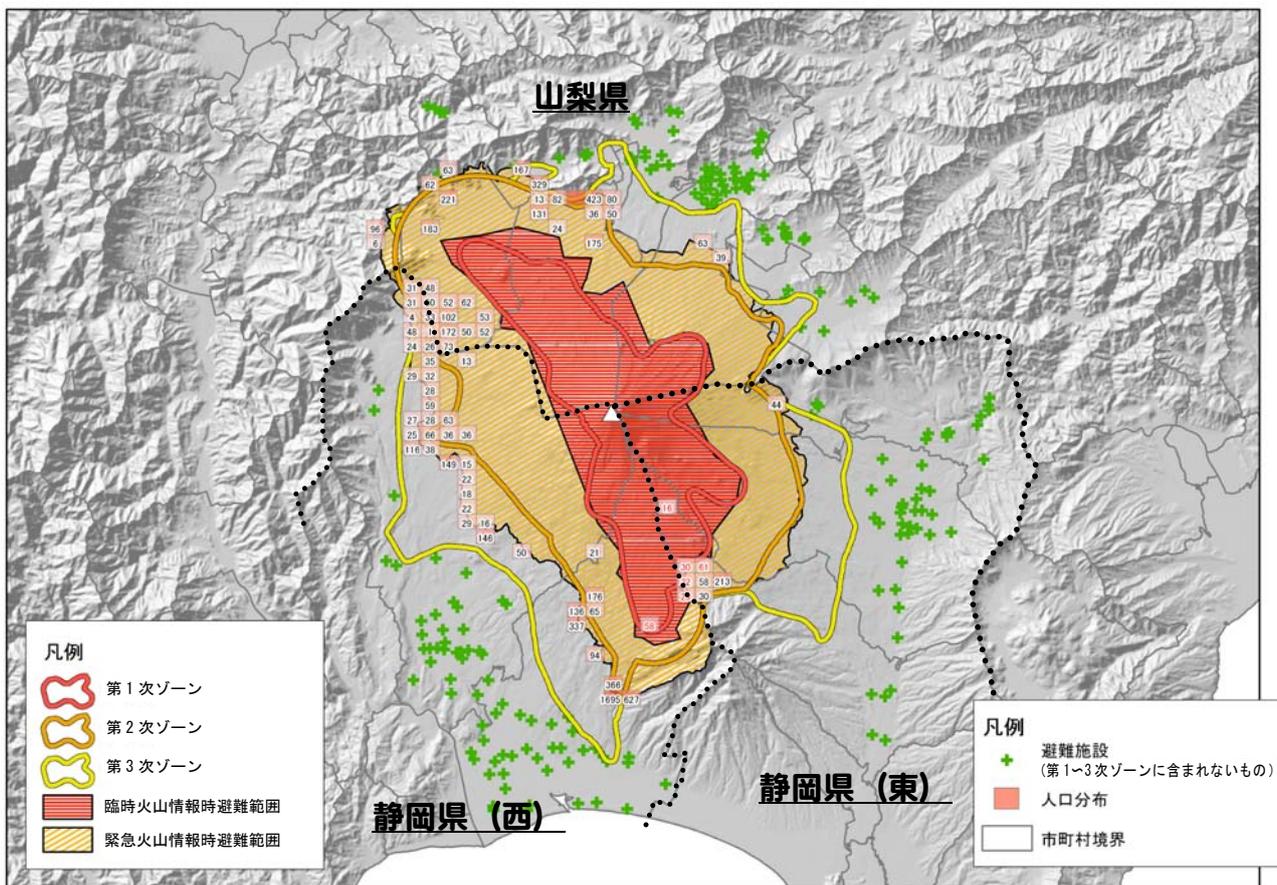
○静岡県側の現況

- ・富士山西側には災害拠点病院が2個所あるが、東側には災害拠点病院もしくはそれに代わるものとして指定された病院（第2次医療拠点）がない。
- ・救護病院が数多く指定されており、第1次医療拠点として利用可能である。
→富士山東側の救護病院から、第2次医療・広域搬送拠点の選定が必要。

（山梨県、静岡県地域防災計画より）

噴火前避難を実施した場合に必要な物資の量

《噴火前避難の対象範囲と避難施設》



※図に示す「臨時火山情報時避難範囲」および「緊急火山情報時避難範囲」は、道路、河川等の地形地物の線を用いて作成（仮定）したものであり、今後、地域の実態に応じた市町村の検討が必要。

◇噴火前避難対象となる一般住民に対して必要となる物資は、以下の通りである。

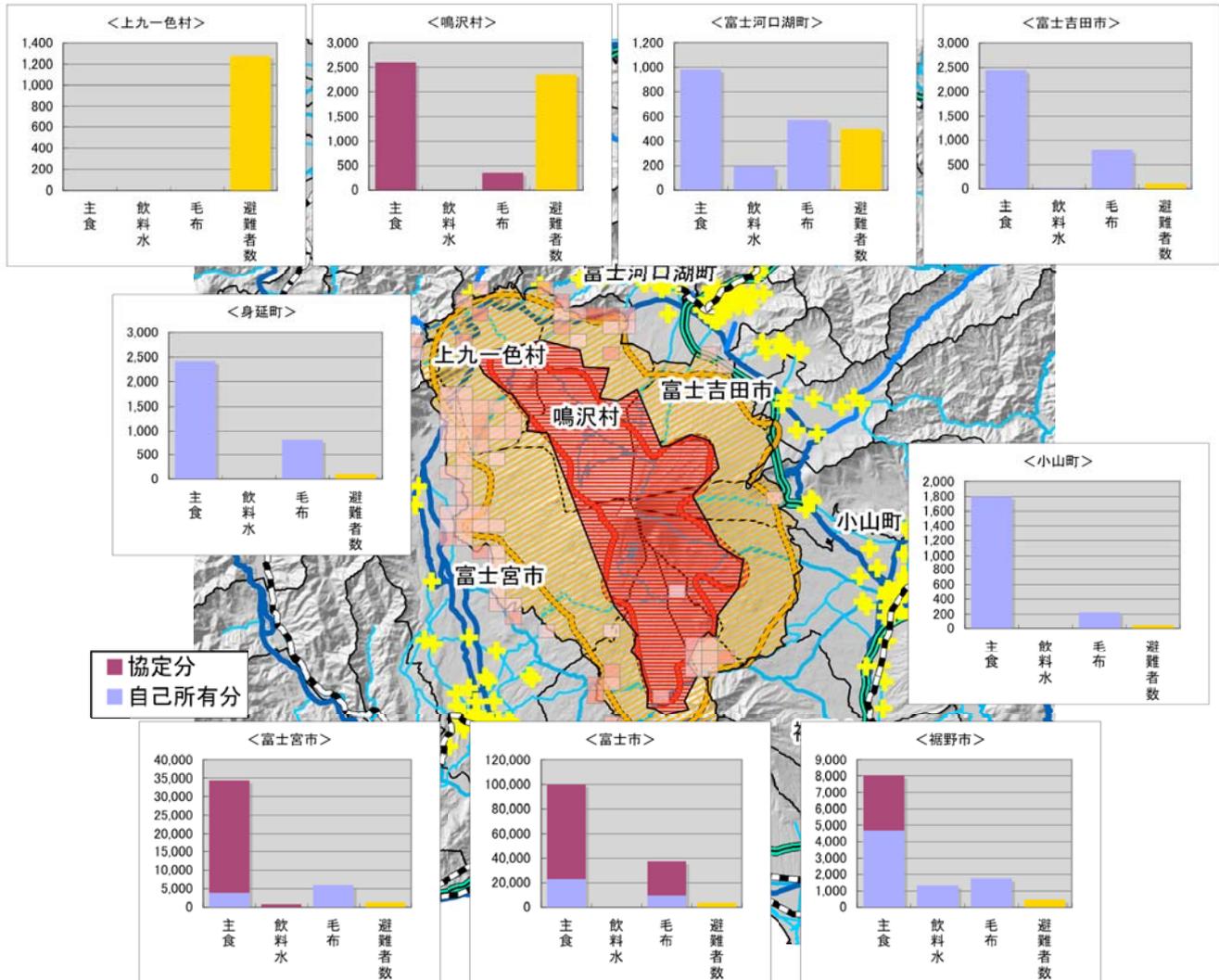
【試算】

避難対象		山梨県	静岡県(西)	静岡県(東)
第1～2次ゾーン	避難人口	約1,600人	約800人	約400人
	食料(1日3食×3日分)	約14,400食	約7,200食	約3,600食
	水(1日3リットル×3日分)	約14,400リットル	約7,200リットル	約3,600リットル
	毛布(1人2枚)	約3,200枚	約1,600枚	約800枚
臨時火山情報時避難範囲および緊急火山情報時避難範囲	避難人口	約4,300人	約4,800人	約500人
	食料(1日3食×3日分)	約38,700食	約43,200食	約4,500食
	水(1日3リットル×3日分)	約38,700リットル	約43,200リットル	約4,500リットル
	毛布(1人2枚)	約8,600枚	約9,600枚	約1,000枚

(避難人口は‘平成12年国勢調査地域メッシュ統計’を用いて試算)

富士山周辺自治体の物資備蓄状況

1. 主食・飲料水・毛布の備蓄量と予想避難者数 【試算】



- ・避難者数は「平成12年国勢調査地域メッシュ統計」を用いて試算
- ・物資備蓄状況のデータ（消防庁提供）を用い、主食、飲料水、毛布の備蓄が、「何人の3日間分」に相当するかを試算した。
- ・主食のうち、備蓄量がkgで表されている「米」については、100gを1食に換算した。また、飲料水の1人1日あたりの必要量は3リットル、毛布の配布は1人2枚づつとした。

2. 流通在庫

静岡県

米穀流通在庫量（卸保有分）	精米	玄米	精米玄米換算計	供給可能人数
東部行政センター分	48 ^ト	1,373 ^ト	1,605 ^ト	891,667人
富士行政センター分	88 ^ト	175 ^ト	247 ^ト	137,222人

※供給可能人数は、一人一日600^gで、3日分供給として換算

毛布（県協定・流通在庫）	38,350枚
--------------	---------

山梨県

乾パン備蓄	2,700食分（富士山周辺合同庁舎備蓄分）
主食（業者との協定分）	パン13,300個
	規制弁当1,850個
	カップ麺56,600個
毛布（業者との協定分）	620枚
布団一式（業者との協定分）	350組

（静岡県、山梨県調べ）

富士山周辺の学習施設

施設名	概要
<p>山梨県環境科学研究所 [山梨県] 山梨県富士吉田市上吉田 字剣丸尾 5597-1</p>	<p>「研究」、「教育」、「情報」、「交流」の各分野を有し、特に環境学習の拠点として、だれでも自由に訪れ、富士山の雄大な自然を楽しみながら環境について学ぶための環境情報センター・環境学習室・生態観察園などの施設がある。</p> <p>また、環境教育事業として各種講座や展示会、映画会等を開催し、多くの方々が環境への関心を高め、日々の暮らしが環境に配慮したものになるように支援しており、環境問題や環境教育への理解を深めることを目的に、また、将来的には地域の環境活動を推進していける人材を養成する第一歩となるように、環境生涯学習プラン「山梨環境科学カレッジ」を開講している。</p>
<p>山梨県立富士ビジターセンター 山梨県南都留郡河口湖町 船津字剣丸尾 6663-1</p>	<p>12面マルチ映像などにより富士山及び富士五湖の生い立ち、地勢的特徴、動植物の分布、自然環境、富士山と人とのさまざまな関わりから生れた伝説、文化、文学、エピソードなどを紹介。</p> <p>インフォメーションとして、富士山への登山に必要な観光情報を提供している。</p>
<p>なるさわ富士山博物館 [鳴沢村] 山梨県南都留郡鳴沢村字 ジラゴンノ 8532-63</p>	<p>富士の裾野に広がる大自然の里、特別天然記念物の溶岩樹型を擁する鳴沢村に展開する富士山への『知識と趣味の登山口』。</p> <p>3面マルチスクリーンに繰り広げられるダイナミックな富士山の姿。マグマの様子が分かる透明な巨大富士山模型。見て触ることのできる溶岩の展示などがある。</p>
<p>裾野市立富士山資料館 裾野市須山 2255-39</p>	<p>富士山の成り立ち、火山弾、溶岩樹型などの自然科学資料や郷土の文化財などを展示。また時節にあった特別展も開催。</p>
<p>環境省生物多様性センター 山梨県富士吉田市上吉田 剣丸尾 5597-1</p>	<p>「調査」「情報」「標本資料」「普及啓発」の4つの柱のもとに生物多様性の保全を図るための人・情報のネットワークづくりを推進。</p> <p>普及啓発事業として、収集・保管した各種資料を公開、また、展示室やホームページで日本の自然環境・生物多様性の現状や、その保全に向けての取組などを紹介。</p>

<p>田貫湖ふれあい自然塾 [田貫湖ふれあい自然塾 運営協議会] 静岡県富士宮市佐折 633-14</p>	<p>環境省が進めている自然学校の第1号。『自然とのふれあい』に重点をおき、専門のスタッフによる自然体験プログラムと、充実した体験のためのビジターセンターおよび宿泊施設を併せ持つハード・ソフト一体型の施設。自然体験を通じて、自然を楽しみ、学ぶことから、環境保全への関心を高め、それを日常の行動に結びつけることができるよう、さまざまな自然体験プログラムを展開している。</p>
<p>富士砂防事務所 静岡県富士宮市三園平 1100</p>	<p>広報活動として「富士山大沢崩れと御中道見学会」、「大沢川扇状地自然観察会」などの現地見学会を開催し、そのほか学習会、冊子やパンフレット等の発行、インターネットホームページの開設を実施している。また、「SABO コミュニティホールあまつばめ」を開館している。</p>
<p>富士山レーダードーム館 [富士吉田市] 山梨県富士吉田市新屋 1936-1</p>	<p>体験学習施設として、館内では、グラフィックパネルや寒さ体験コーナーなど富士山レーダの活躍の軌跡や、過酷な気象条件下における観測業務などを紹介。</p>
<p>道の駅「朝霧高原」 静岡県富士宮市根原字宝 山 492-14</p>	<p>施設内に設置したカメラにより、常時ライブ映像をインターネット発信。情報コーナーでは、富士山カメラを操作したり、富士山周辺の観光情報などが検索できる。</p>
<p>道の駅「富士吉田」 山梨県富士吉田市新屋 1936-6</p>	<p>総合案内所で、道路・観光・登山情報などを提供している。休憩所のマルチビジョンにより、観光案内、道路・天候情報などを提供している。</p>

富士山噴火後のゾーニングの考え方（案）

1. ゾーン区分の考え方（案）

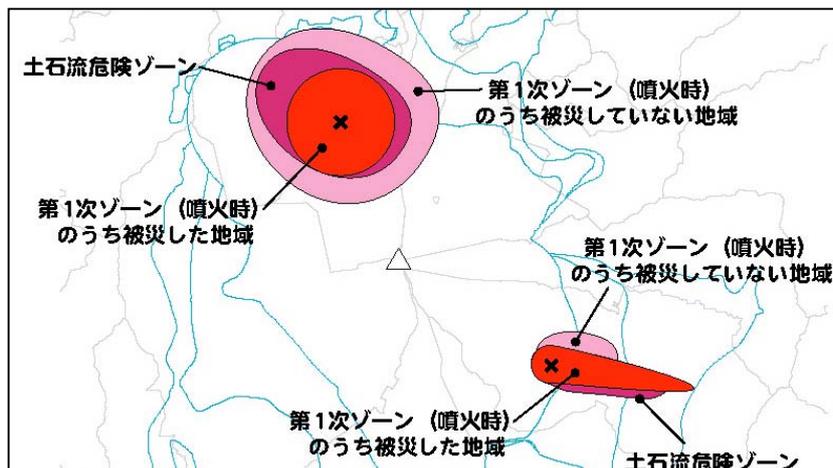
区分	第1次ゾーン（噴火時）のうち被災した地域	土石流危険ゾーン	第1次ゾーン（噴火時）のうち被災していない地域
区域概要	<ul style="list-style-type: none"> ○噴石による被害が甚大な区域 ○溶岩流による被害が甚大な区域 ○火砕流による被害が甚大な区域 ○融雪型火山泥流による被害が甚大な区域 ○土石流による被害が甚大な区域 	○噴火による直接的な被害は、受けていないが、土石流・泥流等の危険性が高い区域	○左記の区域に隣接する区域で、目立った被害はないが、噴石が到達するなど噴火現象（降灰、空振、地震を除く）の到達が確認された区域
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての建築を禁止する地域 整備施設<例> <ul style="list-style-type: none"> ・防災施設整備用地 ・砂防治山ダム、沈砂地等 ・緑地 ・災害遺構保存地 		<ul style="list-style-type: none"> ○都市的土地利用を行わない地域 ・住宅、福祉施設等は建築不可 ・その他業務用等の建築物は、自己責任で建築可
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○土石流危険ゾーンにある‘今のところ’被害を受けていない住宅、施設等の移転問題。 ※火山活動が沈静化した後も、被災区域については、半永久的に利用を制限する必要があるのか？ 		

2. 移転の方針と事業手法

区分	第1次ゾーン（噴火時）のうち被災した地域	土石流危険ゾーン	第1次ゾーン（噴火時）のうち被災していない地域
移転方針	○全ての建築物移転		○住宅・福祉施設等移転
事業手法	<ul style="list-style-type: none"> ○砂防区域指定、砂防による移転補償（第1次ゾーン（噴火時）のうち被災した地域のみ） ○災害危険区域指定（建築基準法 39 条） ○防災集団移転 		<ul style="list-style-type: none"> ○防災集団移転 ○都市公園事業

3. 都市計画の変更

区分	第1次ゾーン（噴火時）のうち被災した地域	土石流危険ゾーン	第1次ゾーン（噴火時）のうち被災していない地域
現在の用途地域	○大部分は白地地区		
変更後の用途地域等	○白地（用途無指定）		<ul style="list-style-type: none"> ○白地（用途無指定） ○特定用途制限地区



<噴火後のゾーニングイメージ>

富士山火山防災に関する啓発活動事例

※富士山火山防災に関連する主な事例を示している。

<p>■主なシンポジウム</p>	<p>□富士山防災シンポジウム（2000年11月6日 山梨県富士吉田市／山梨県）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2000年に富士山で低周波地震が急増してからの最初の富士山火山防災に関するシンポジウムで、富士山の現状報告や火山災害についての討論が行われた。 ・2000年の有珠山噴火災害とその対応について、地元学識者や行政担当者からの報告も行われた。 <p>□富士山防災シンポジウム—火山災害に備える（2001年5月25日 富士五湖文化センター／読売新聞社主催、山梨県、富士吉田市、河口湖町、テレビ山梨、静岡第一テレビ、富士砂防工事事務所後援、富士急行協賛）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演では「火山災害では、いくつものシナリオを想定し、噴火災害に備える必要がある。火山を知ることが被害を少なく食い止める。」との提言や北海道有珠山の噴火経験者から、「火山とは友達、親しくなることが大事」との教訓が示された。 ・噴火への具体的な備えや防災訓練の意義などについて討議が行われた。 <p>□「火山フォーラム in 御殿場」—火山とともに生きる知恵を語り合おう—（2001年11月23日 御殿場市民会館／静岡県）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火山噴火事例報告では、有珠山、三宅島の火山噴火事例が紹介され、富士山の現状として観測データの状況報告、ハザードマップの作成状況等が報告された。 ・パネリストや参加者が、火山のもたらす脅威と恵みを正しく認識しながら、長期的な視点に立って、どのような「備え」をしていくことが必要なのか、火山の恵みをどのように暮らしや地域づくりに活かしていけばいいのかなど、「火山とともに生きる知恵」について語り合われた。 <p>□富士山防災シンポジウム（2002年11月21日 静岡県富士市／読売新聞）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演では、富士山防災マップ作成の現状と課題が報告され、また北海道壮瞥町からは有珠山火山と共生する地域づくりについて報告された。
<p>■富士山ハザードマップ説明会</p>	<p>□各県における富士山ハザードマップ説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2002年には、「富士山火山防災協議会」から中間報告された富士山ハザードマップ原案について、山梨県、静岡県、神奈川県において説明会が開催された。 ・2004年には、最終報告の結果を受けて、山梨県、静岡県、神奈川県において説明会が開催された。 ・周辺市町村の職員、防災関係機関、一般県民等の参加のもと、富士山ハザードマップの具体的な内容について、富士山ハザードマップ検討委員会委員長である荒牧重雄東京大学名誉教授をはじめ、国（内閣府、消防庁、国土交通省（河川局、気象庁））の担当者等が説明を行い、またハザードマップのあり方について意見交換が行われた。

<p>■住民組織による自主的勉強会（取り組み事例）</p>	<p>□上吉田安全まちづくりネット実行委員会による勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富士吉田市の住民組織である「上吉田安全なまちづくりネット実行委員会」（早川宏代表）は、2004年12月に、上吉田コミュニティセンターに、富士山ハザードマップ検討委員会委員長の荒牧重雄東京大学名誉教授を講師に招き、「富士山の噴火と防災教室」を開催した。 ・富士山ハザードマップ検討委員会がまとめた防災マップについての理解を深める目的で、約百二十人が噴火現象や防災について学んだ。 ・住民が主体となって、ハザードマップ等について理解を深めようとする試みはこれが初めてであった。
<p>■学校教育関連</p>	<p>■富士吉田市教育委員会のとりくみ（2004年1月26日付 毎日新聞）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富士吉田市教育委員会は、富士山の噴火に、富士山ハザードマップ（災害予測図）を分かりやすく児童、生徒に教えるための指導案「15分で教えるハザードマップ」作りを進めている。授業内容は家族に話すよう児童らに呼び掛け、防災に対する住民全体の関心も高めることをねらいとしている。 ・指導案は小学低学年、同高学年、中学生の3種類。平成15年から市内小中学校の教諭が研究会を重ね、授業前の朝会や帰りの会で学べるよう、15分間に設定した。富士山は活火山であることを認識させ、マップの作成目的や基本的な見方、災害時の対応などを学ぶ。 <p>■富士宮市教育委員会の「富士山学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富士宮市教育委員会は、1998年度から小中学校を対象に「富士山学習市内発表会」を開催している。 ・富士宮の文化遺産「富士山」と触れ合い、親しみ、調べ、地域と協働して発表会を創り上げる活動をとおして、「富士山の自然を守り、安らぎと活力に満ちた国際文化都市づくり」への思いを市民とともに高める機会としている。 <p>■ハザードマップ読み取り実験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡大学教育学部小山研究室が主体となって関わってきた地震・火山教育への最近の実践的取り組み ・富士山ハザードマップ作成の最終段階において、本当に住民にとって理解しやすいマップであるかどうかを検証し、住民からの改善要望をフィードバックさせるために、富士山麓に住む中学生たちを対象としたハザードマップの読み取り実験を実施した。 ・通常の理科授業枠を1時間ずつ使い、静岡大学からの出張授業の形で、ハザードマップ試作版のうちの富士山全体版ならびに富士宮市版の2枚を用意し、片方のクラスにはA1判用紙に印刷したもの、もう片方のクラスにはハザードマップ内容のすべてをパソコン上で閲覧できるように調整したものを与え、読み取り過程と結果を比較した。 <p>出典：「地震火山防災教育の教材開発と普及に関する最近の実践的取り組み（静岡大学編）」小山真人（静岡大学教育学部総合科学教室）</p>



■地震火山子どもサマースクール（第4回 2003年8月2日 主催：日本火山学会・日本地震学会・静岡県）

- ・活火山としての富士山を題材として、野外での地形・地質観察や実験などをゲーム形式での説明をおりまぜながら体験することによって、地震・火山災害についての基礎知識を学び、大地の営みについての理解を深めることをめざす。
- ・小学校5年生から高校3年生までを対象に、専門家スタッフによる火山学・地震学の最新知識の解説や参加生徒チームによる学習内容の発表が行われた。



■小中学校理科教員研修会 ～体験で学ぶ火山～（2004年8月 山梨県環境科学研究所・山梨県教育委員会）

- ・行政レベルで富士山噴火に対する取り組みが活発化する中、先生たちにも火山への知識や理解を深めてもらうことで、授業への活用を促そうと初めて実施された。県内小中学校の理科教師ら約四十人が参加。
- ・小中学校の教育課程に火山関連の項目があること、また、富士山の噴火の可能性が注目を浴び、地元の関心が高まっていることから、富士山を中心とした火山作用一般及び防災関連のトピックを理科教育に組み込んだ火山に関する教材、教育法についての研修を行い、理科教育の一層の充実を図ることを目指す。

富士山周辺地域におけるエコツアーの事例

活動団体等	概要
環境 NPO 富士山クラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・「美しい富士山を子供たちに残していくために…」をスローガンに、環境保全実践事業、啓蒙事業を展開。森づくりインストラクターの養成講座を開催。 ・「富士山環境ごみマップ」：富士山の中およびその周辺のどこに、どのようなゴミが、どれくらい捨てられているのか。それらを調査し、地図上に掲示して、富士山周辺のゴミの実態を明らかにしようとする試みも行っている。
ホールアース自然学校	<p>自然体験型の環境教育事業所。</p> <p>実体験主義・自然観の回復をテーマに、様々な自然体験プログラム・指導者研修・エコツアーなどの企画、コーディネートを行っている。自然学校講座の一部を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洞窟原生林探検：青木が原樹海など森を歩き洞窟に潜る。 ・野外救急法の学習：もし子どもが捻挫したら？ハチに襲われたら？日射病になったら？野外でできる救急法を、ケーススタディを通して学ぶ。 ・危機管理トレーニング：事故が起きる前にしなくてはいけないことは何だろう？万が一事故が起きてしまった後はどのように対処すればいいだろう？危険を予防し危険を管理するトレーニングを試みる。
富士宮市「歩く博物館」	<p>「歩く博物館」とは、富士宮市内に点在する歴史遺産や自然遺産などを身近にふれ・見・感じてもらうもの。現在、下記のコース（一部）を選定し、パンフレットを発刊している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湧水と水を活かした産業コース（猪之頭地区） ・富士の巻狩コース（白糸・上井出地区） ・古墳をたずねるコース（富士根南地区） ・富士山自然休養林西臼塚コース（富士山，西臼塚） ・宝永遊歩道コース（富士山，五合目） など

<p>富士吉田市 「Mt. Fujiジュニアアカレッジ（小中学生向け）」</p>	<p>学校が休みとなる土日や放課後を利用して、将来を担う子どもたちとともに活動し体験する中で、「ふるさとがどんなに素晴らしいか」「ふるさとに誇りをもつ心」「人間には多くの可能性があること」「人が生きる上で一番大切なもの」「地球環境の尊さ」等を伝えるシステム。</p> <p>具体的な体験学習プログラムには、「NPO 法人 富士に学ぶ会による探検教室」「親子で富士登山」などがある。</p>
<p>富士山の自然を守る会</p>	<p>「富士山麓ぐるり湧水めぐり」:</p> <p>コースは富士宮市役所-西町湧水-よしま池-淀師水柵水道水源-大堰用水取水口-椿沢水道水源-朝日滝-北山用水（浄水）取水口-猪之頭大橋湧水-県営富士養鱒場-猪之頭保存湧水池（陣馬の滝など）-北山浄水場-富士宮市役所（市職員が解説）</p>
<p>「まなびの森」実行委員会</p>	<p>富士山南麓2合目の国有林内に位置する富士山「まなびの森」では、平成10年より毎年春と秋にボランティアが参加し植林活動を行っている。専門の山林技術を持った指導員が丁寧に指導する。</p>
<p>富士宮自然観察の会</p>	<p>毎月1回、次のような自然観察会を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春の野草観察とゴミ拾い ・麓川の水辺観察 ・宝永山と遊歩道を歩く。新五合目駐車場より快晴の宝永山火口や遊歩道の野草観察。 ・富士宮市主催、親子森の観察の講師派遣

(富士山ネットワーク HP <http://www.fujisan-net.gr.jp/action/index.htm>)

(ホールアース自然学校 HP <http://wens.gr.jp/>)

(富士吉田市 HP <http://www.city.fujiyoshida.yamanashi.jp/>)

(富士宮市 HP <http://www.city.fujinomiya.shizuoka.jp/>)

富士山火山防災マップ作成状況

都道府県	市町村	富士山火山 防災マッ プ作成の 予定	作成年度	公表時期	詳細 シミュレーションの 実施	備考
東京都						
神奈川県	小田原市	なし	—	—	なし	市のホームページで 内閣府へリンク
	秦野市	なし	—	—	なし	
	南足柄市	あり	17年度	未定	なし	
	山北町	なし	—	—	なし	
	箱根町	なし	—	—	なし	
山梨県	富士吉田市	あり	17年度	未定	なし	「富士火山を知る－ 富士北ろく住民ガ イドブック」(16ペ ージ) 平成16年11月作成
	西桂町					
	忍野村					
	山中湖村					
	富士河口湖町					
	鳴沢村					
	上九一色村					
	身延町					
静岡県	御殿場市	あり	15年度	平成16年4月	あり	
	富士市	あり	15年度	平成16年8月	なし	
	富士宮市	あり	15年度	平成16年8月	なし	
	裾野市	あり	16年度	平成16年12月	なし	
	小山町	あり	16年度	平成17年1月	なし	

(平成17年5月調べ)